

## こんな話ができる中一がいるの！

「えっ、こんな話ができる中一がいるの！」  
びっくりしました！何気なく参観した朝の会で、一人の生徒が手に一冊の本をもって語り始めました。  
「私は今『自分の心理学』という本を読んでいる……。」

「今日は……。」というような平凡なフレーズで始まるのではなく、実物を提示して視覚に訴える話し方からスタートしました。私はすぐに聞きたくなりました。「心理学」という言葉にもひかれるものがありました。それに関する本を読んでいる生徒がいるということにも興味をもちました。

「この本の中に、うなずきとあいづちについて書いてあるところがあつて……。」

本の紹介で終わりませんでした。書かれた内容の中から、伝えたい箇所を絞って具体的に提示しました。話の最後で言いたいことに結び付けるためには、そうする必要があつたのです。「うなずきはシンクロニーと言って、相手に合わせることを言います。うなずかないのは『あなたの意見に賛成できない』『あなたとは話したくない』というメッセージになってしまふと書いてありました。逆に、うなずきすぎるのは、面倒くさくなつたという心の表われになるそうです。私たちも、仲間が話をするときには、効果的にうなずいて聞きましょう。」

この生徒が、本を提示し、その中から大切な部分を引用し、最後に自分の言いたいことを端的に述べたこの手順に、私は驚きました。そして、その生徒が一年生であることにも大きな感動を覚えました。

この生徒は一年B組の級長A・Mさんです。五月二十七日に「反応」というタイトルでメッセージを書きましたが、その中の級長も彼女です。朝の会に位置づいている「級長の話」に、彼女は題材を準備して臨んでいることがわかります。話さなければならぬから話すという意識でいると、ついついその場で題材を探し、呼びかけ型の短い話になりがちです。

ぜひともリーダー的な立場に立った人には、話すために与えられた時間を大切にしたいと思えます。話す内容もさることながら、話し方も工夫すると、聞く人の反応も大きく変わります。A・Mさんの話に耳を傾ける仲間は、しっかり彼女の方を見てうなずいていました。

毎日話すと言えば、職員もそうです。A・Mさんに負けないくらいに、魅力的な話題、聞きたくなる話し方が毎日できていますか。生徒の皆さん、担任の話は聞きたくなる話になっていきますか。